

JAFRA NEWS

公益社団法人 日本鉄道広告協会 会報

Japan Association for Rail Advertising

8月号
Vol.97
2026年8月1日発行

発行所：公益社団法人 日本鉄道広告協会

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号 JR恵比寿ビル10階

TEL：03-5791-1808 FAX：03-3443-1616 メールアドレス：information@j-jafra.jp

URL：<https://j-jafra.jp/>

巻頭レポート

「推し活」時代の交通広告

——ファンの想いを乗せる媒体としての新たな可能性

はじめに

近年、「推し活」という言葉がすっかり社会に定着しました。アイドルやアーティスト、キャラクター、スポーツ選手など、自分の心を動かす存在を応援する行為は、もはや一部の熱心なファンだけのものではなく、幅広い世代にとって日常の一部となっています。そしてこの潮流は、交通広告の世界にも大きな変化をもたらしています。ファンが自費で「推し」の誕生日や記念日を祝うために駅や車両に広告を掲出する、いわゆる「応援広告（センチル広告）」の広がり、その象徴と言えるでしょう。

人口減少やライフスタイルの多様化が進むなか、交通広告の新たな価値をどう創出していくかは大きなテーマです。本稿では、「推し活」というキーワードを切り口に、応援広告の現在地と、交通広告がこれから果たし得る役割についてご紹介します。

「好き」は消えるのではなく、眠っている

「推し活」を考える上で、ひとつ重要な視点があります。それは「人の『好き』という感情は、一度離れてしまっても消えてなくなるわけではなく、心の奥に眠り続けている」という事実です。

たとえば、子どもの頃に夢中になった電車やキャラクター、若い頃に追いかけたアーティストやスポーツチーム。多くの人は大人になる過程で、仕事や家庭、新しい趣味などに時間を割かれ、かつての「好き」か

ら距離を置きます。しかし、そうした人々の多くは、対象を嫌いになっ



※画像はイメージです

株式会社JR西日本
コミュニケーションズ
総合企画局
次世代事業開発室

たわけではありません。弊社が生活者へのインタビュや調査を重ねるなかで見えてきたのは、休眠している趣味についても「今でも好意は残っている」「機会があれば戻りたい」と答える人が大半を占めるという事実でした。離脱の主な理由は、嫌悪ではなく「優先順位の低下」なのです。

では、眠っていた「好き」はどうすれば目覚めるのでしょうか。鍵となるのは、再び対象に出会う「きっかけ」と、大人になった自分にとっての「新しい意味づけ」の二つです。子どもの頃と同じ理由で戻ってくる人は少なく、多くは「仲間と語り合える楽しさ」「日常の癒し」「学びや教養としての深さ」など、年齢を重ねたからこそ見出せる価値を見つけて再燃しています。

この「好きの休眠と再燃」というメカニズムは、まさに現代の「推し活」を理解する上で欠かせない視点であり、交通広告の新たな役割を考える出発点にもなると、弊社では考えています。

「推し活」が個人と社会にもたらすもの

推し活の広がりには、業界各社の調査でも明らかになっています。たとえば応援広告事務局「Cheering AD」を運営する株式会社ジェイアー

ル東日本企画の最新調査によれば、推しがいる人は全体の約3割にのぼり、その多くが複数の推しを持ちながら自分のペースで応援を楽しんでいるとされています。さらに、推しがいる人は新しいことへの挑戦意欲が高く、語学学習や資格取得、貯金、クリエイティブスキルの習得など、自己成長の原動力として「推し」が機能している傾向も報告されています。

「好き」が個人の人生をポジティブに動かす原動力となり、その熱量が経済活動にも波及している——推し活はもはや単なる「消費行動」ではなく、人々の生き方そのものに関わる文化的な営みになっていると言えるでしょう。こうした変化は、交通広告の媒体価値を考える上でも見逃せない潮流です。

なぜファンは、交通広告で「推し」を祝いたくなるのか

ここでひとつの問いが浮かびます。SNSが発達し、誰もが気軽に発信できる時代に、なぜファンはわざわざ費用と手間をかけて、駅や車両に応援広告を掲出したいと考えるのでしょうか。

第一の理由は、交通広告が持つ「公共性」と「リアルな実在感」です。SNS上の投稿は、同じ趣味を持

つフォロワーには届きやすい一方で、コミュニティの外にはなかなか広がりません。しかし駅という公共空間に掲出されたポスターは、ファンだ

けでなく、たまたま通りかかった人の目にも触れます。「自分の好きな存在が、社会の真ん中で堂々と祝われている」という実感は、デジタル上



※画像はイメージです。

では得難い特別な体験なのです。

第二の理由は、「聖地性」とも呼べる場所の力です。推しが過去にライブを行った駅、ミュージックビデオに登場した路線、ゆかりのある街——ファンにとって特定の駅や沿線は、単なる移動の場ではなく物語を宿す



舞台です。その場所に広告を掲出することは、推しと土地と自分自身を結びつける儀式のような意味を持ちます。

第三の理由は、「かたちに残る応援」への憧れです。デジタルの「いいね」は一瞬で流れていきますが、駅に掲

出されたポスターは数日間、確かにそこに存在し続けます。広告の前で記念写真を撮り、SNSに投稿し、同じ推しを持つ仲間と共有する。そこには「自分たちの愛が確かにこの世界に刻まれた」という達成感があります。

そして第四に、交通広告には「偶然の出会い」を生む力があります。たまたま広告を目にした人が、その推しに興味を持つかもしれない。眠っていた「好き」を呼び覚まされる人がいるかもしれない。応援広告は、自分の愛を表現する手段であると同時に、推しの魅力を新しい人へ届ける「布教の装置」でもあるのです。

交通広告の未来へ——眠っている「好き」に手を差し伸べる

こうした応援広告の盛り上がりは、私たち交通広告に携わる者にとって、媒体価値を再定義する大きなヒントを与えてくれます。これまで交通広告は「クライアントのメッセージを生活者に届ける装置」として位置づけられてきました。しかし応援広告は、その関係を逆転させます。広告主はファン個人であり、メッセージは「推しへの愛」であり、媒体はその想いを社会に可視化する舞台となるのです。

こうした潮流を受けて、遅まきながら

弊社では2026年4月より、大阪駅桜橋口地下に応援広告専用ポスター枠の販売を開始いたしました。販売開始当初より多くのお問い合わせをいただいております。関西エリアにおける応援広告ニーズの確かな高まりを実感しています。首都圏を中心に先行してきた応援広告の取り組みが、いよいよ関西にも本格的に広がりますと云えるでしょう。

応援広告は単発の広告出稿に留まらない広がりを持っています。広告の前で写真を撮り合うファン同士の交流が生まれ、SNSで拡散され、コンテンツへの愛着がさらに深まる——広告が「メッセージを伝える媒体」から「コミュニケーションを生み出す装置」へと進化しているのです。これは交通広告ならではの「リアルな場」としての強みを最大限に活かした、新しい媒体活用のかたちと言えるでしょう。

人口減少やライフスタイルの多様化により、交通広告を取り巻く環境は決して平坦ではありません。しかし、人々の心の中で眠っている「好き」に寄り添い、その再燃を支える媒体として再定義できれば、交通広告には新たな成長の地平が広がっているはずです。ファンの想いに寄り添い、共に文化を育てていく——そんな姿勢こそが、これからの交通広告に求められているのではないのでしょうか。

広場

東海道五十七次

理事 永田 直人 (京阪電気鉄道株式会社)

「東海道」と聞けば、多くの方は歌川広重の浮世絵にも描かれた「東海道五十三次」を思い浮かべることでしょう。江戸の日本橋から京都の三条大橋に至る五十三の宿場町はあまりにも有名です。しかし、東海道にはまだその先が存在することをご存知でしょうか。洛中を経由せず、大坂の高麗橋へと至る「東海道五十七次」が近年注目されています。

東海道五十七次のルートは、五十三次最後の宿場町である大津宿から三条大橋へと向かう途中の「髭茶屋追分（ひげちややおいわけ）」で五十三次から分岐します。五十三次はそのまま西へ進んで京都の三条大橋を目指しますが、五十七次はここから

南西へと針路を変え、伏見宿、淀宿、枚方宿、守口宿という四つの宿場町を経て大坂へと向かうのです。では、なぜ江戸幕府はわざわざ洛中を避けるようなルートを整備したのでしょうか。その理由は、西国の大名たちが参勤交代などで移動する際、彼らが朝廷のある洛中に入り、天皇や公家と結びつくことを幕府が警戒し

たためだとされています。五十七次のルートは大名たちが不穏な動きを見せないよう、洛中を通らずに直接、経済と物流の中心地であった大坂へ行き来させるための街道として機能していました。

伏見宿から大坂高麗橋へ至る五十七次のルートは、淀川の舟運も併用されていた

ようですが、ほぼ現代の京阪電車・京阪本線のルートと重なっています。

さらに、伏見宿は中書島駅や伏見桃山駅、淀宿は淀駅、枚方宿は枚方市駅、そして守口宿は守口市駅というように、五十七次の各宿場町のすぐ近くには京阪電車の駅があり、駅名からも宿場町の存在を知ることができます。

特別装飾電車



ぐ近くにも、京阪電車・京津線の追分駅があります。

・【伏見宿】豊臣秀吉が築いた城下町であり、伏見城や幕末の舞台となった寺田屋が知られています。酒蔵の街並み、十石舟の遊覧が有名です。

・【淀宿】桂川・宇治川・木津川に囲まれ

た淀城の城下町です。

「水に浮かぶ城」と称され、川船の往来で賑わいました。

・【枚方宿】

淀川を行き交う三十石船の「くら

わんか舟」が名物だった宿場町です。当時の喧騒と情緒を今に伝える町並みや、かつての船待ちの宿「鍵屋」も見どころのひとつです。

・【守口宿】豊臣秀吉が築いた文禄堤の上に設けられました。今も残る職人や商人の古い町並みが、往時の風情を物語っています。

京阪電車では現在、「まだ知らない旅の旅へ 東海道五十七次」と題した観光キャンペーンを実施中です。キャンペーン専用のパンフレットを制作したほか、特別装飾電車を運行したり、宿場町最寄り駅に案内看板を設置したりと、東海道五十七次をお楽しみいただける環境を整えました。かつての大名や旅人たちが時間をかけて歩いて旅したルートを京阪電車で辿る旅はいかがでしょう。

次回の広場もお楽しみに。



パンフレット

2026年度定期総会を開催

6月25日(木)14時00分、ホテルメトロポリタン(池袋)において、多数の会員が出席し、2026年度定期総会を開催し、2025年度事業報告及び決算、協会役員の選任案などを審議した。

新井良亮会長あいさつ

本日は大変ご多用の中、2026年度のJAFRA定期総会にお集まりいただき誠にありがとうございます。2025年度の事業計画も終了し、無事乗り切ることができました。日本経済の順調な回復に相まってここ2年くらいはコロナ禍前のレベルまで、鉄道事業もあと一歩ということまで来ているということ



挨拶する新井良亮会長

す。今日を迎えることができたのは会員各位の交通広告への危機感や使命感、経営を盤石にするなど様々な経営革新を実施してきた結果だと確信しております。最近では、経済情勢、世界の動向は大変目まぐるしく変わり、大変不透明な状況になってい

ます。生成AIをはじめ、技術革新が社会、産業のあらゆるレベルで大幅にシステムがただ変わっていくというだけではなく、大変なスピードで大変革を遂げています。広告業界も、交通広告にとりましても例外ではありません。産業システムが変わり、技術革新の大変革の真つただ中にあり社会の大きな潮流に乗り遅れないことが非常に重要で、むしろそれを先取りし、時代の先駆者としての役割を果たしていくこそ交通広告が社会やマーケットから期待されていることだと思います。加えて新たな発想と経営の質的向上を図りつ

つ、交通広告の価値やビジネスの原点を見つめ直して、新たな再出発の礎にしていこうと求められています。鉄道は社会が大きく変わる激動の中にもあっても、再評価され、新たな時代を迎えると言っても過言ではありません。交通広告の存在価値はまさにここにあります。

一方で、広告業界でウェブやSNSをはじめとする広告は急成長しており、既存の広告に頼っているだけでは取り残されてしまいます。とはいえ交通広告の潜在的価値や本質的意義は、変わっていないと思いますので、こうした不透明で激動の時代であればこそ果たすべき役割、マーケットからの期待値がますます増えています。この状況を認識し、さらに飛躍すべく様々な取り組みをしなければなりません。これまで鉄道広告が取り組んできたことの1つは鉄道や交通事業をしつかり支え、社会や日々の生活者

を紡いできたということです。また活力ある地域経済を支え、さらに社会の価値を創造し、社会に貢献してきたということになります。大転換の時代を迎え、これまで先輩たちの残した足跡をさらに成長させるべく一層の飛躍をする時がきています。そのためには、ビジネスの幅を広げ、深掘りをし、その中から活路を見い出すことが成長につながります。

当協会に結集する会員各位にもより一層の奮闘を期待していますし、奮闘していかねければ、厳しい現実の中では、淘汰されてしまうという覚悟をしていかななくてはなりません。皆さんと様々なことを共有し、さらなる成長のために努力をしてまいります。広告が果たす役割というのは、ますます期待が大きくなっていると申し上げて、ご挨拶といたします。本日はよろしくお願いいたします。

審議内容は以下のとおり。

第1号・第2号議案

2025年度事業報告及び決算報告については、薬師専務理事の説明と、竹澤康行監事代表の監査報告の後、採決の結果、委任状によるものを含め、定款第27条に基づく過半数の賛成により、本議案は提案通り議決された。



監査報告をする竹澤康行監事

第3号議案

理事の選任

2026年度定期総会終結時において定款第16条1項に基づき現在の理事は任期満了となるので、定款第14条で「理事及び監事は総会において正会員の役員等の中から決議によって選任する。ただし、理事にあつては10名、監事にあつては2名を限度とし、学識経験者など正会員の役員など以外のものから選任することができる。2、会長、副会長、専務理事及び常任理事は、理事会において選定する。定款第16条、理

事の任期は選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終の事業年度に関する定期総会終結の時までとする。ただし、再任は妨げない。今回は理事7名が人事異動などの理由により退任されるので了承し、新たに理事13名を選任し、他の理事は再任とする。」と発言し5月21日開催の第1回理事会において取りまとめられた役員選任案を、薬師専務理事が読み上げた。

また、会長新井良亮氏の退任に伴う役員に対する退職慰労金支給案を退職手当支給規定第1条第2項の規定により支給する。と説明があった。

採決の結果、委任状によるものを含め、定款第27条に基づく過半数の賛成により、本案は提案通り議決され、被選任者はその就任を承諾した。

なお、会長、副会長、専務理事、常任理事については、定款第14条2項に基づき総会終了後、臨時理事会を開き選出したものである。

(役員、委員長、支部長一覧は13、14ページに)

報告事項

2026年度事業計画

日本経済は、個人消費においては物価上昇の影響を受けつつも雇用・所得環境の改善を背景に底堅く推移し、企業収益においては米国の関税政策の影響を受けつつも設備投資も増加傾

向で、持続的・安定的な物価上昇率2%実現に向けた緩やかな経済成長が見込まれていましたが、中東情勢に絡み、先行きは非常に不透明な状況となっています。

鉄道事業における業績は、各社の営業施策の展開、沿線の活性化や地域との連携など経営努力の結果が顕著となっています。しかしながら社会構造が劇的に変貌を遂げている時代にあつて、鉄道事業を取り巻く経営環境は一層厳しさを増しており、社会、経済のインフラとしての役割を果たし、日々の社会生活に必要な、そして産業の発展に欠くことの出来ない生活基盤としての使命についてもこれまで以上に期待されています。

一方、広告業界全体では、日本の広告費がコロナ禍から順調に回復し、3年連続で過去最高を更新しており、特にデジタル広告分野が市場全体を牽引しています。但し、新聞や雑誌など紙媒体の広告の減少に見られるようなマス広告の価値低下をはじめ、消費者による広告回避や少子高齢化による市場減少など大きな課題を抱え、デジタル技術の活用や広告会社の質への転換が強く求められています。

鉄道広告においては、皆様の様々な経営努力や新規施策と鉄道事業の回復と相俟つて業績はあと一步のところまで来ており、業界レベルの水準を確保していくことが重要で、社会が大変

革の時代にあつて、鉄道広告も同様に改革を求められています。経営の質的向上を図り、選択される媒体になるべく、マーケティングのニーズが何であるかを徹底的に追求し、一出せば届く媒体から価値を創出する媒体に脱却していく。そのために営業部門の近代化、人材の育成、AIの活用、効果の可視化、透明化などに喫緊に取り組む必要があります。当協会においても会員の皆様のお声に耳を傾け、各支部、各種委員会との取り組みをしっかりと下支えし、より活性化に向けて支援していきたいと考えています。

こうした現状を直視し、鉄道広告の持つ公益性と果たすべき役割をあらためて認識したうえで、2026年度は次なる項目を重点課題として取り組んでいきます。

1. 鉄道広告価値の向上
2. 空き媒体の解消
3. 脱炭素社会への取り組み
4. 支部、委員会活動のより一層の活性化
5. 新規会員の加入促進

具体的な各施策については次ページ以降のとおりとなりますが、景気回復基調にある日本経済のフォロワーの風に乗って、会員の皆様方と一致協力し、この難局を乗り越えていきたいと考えています。

1. 各委員会の主な活動目標

総務・財務委員会

- ・新規会員の加入促進
- ・支部活動活性化支援
- ・年次報告書の作成
- ・他広告団体との交流

総務・財務委員会

中村晃委員長

主な活動目標は、新規会員の加入促進、支部活動活性化支援、年次報告書の作成、他の広告団体との交流、以上です。



中村晃総務・財務委員長

倫理委員会

- ・倫理綱領、掲出基準に基づく広告審査実態の継続的把握
- ・鉄道広告倫理綱領及び掲出基準の適用に関する教育研修の実施



神田橋治倫理委員長

- ・鉄道利用マナーUPキャンペーン実施に向けた働きかけ
- ・広告倫理に関する事例研究の実施
- ・日本広告審査機構、日本雑誌協会等との意見交換

倫理委員会

神田橋治委員長

社会基盤の一つである鉄道における交通広告は社会に与える影響力の重大さを認識し、豊かで文化的で明るい社会作りに寄与するための広告倫理の向上を目指す。今年も5つの活動目標を設定して進めてまいります。その中でも、鉄道広告、倫理綱領及び提出基準に関する研修を今年度も各支部と連携して実施していきたいと考えております。今年度も会員、各社様のご理解、ご協力のもと取り組んでまいりますので、よろしく願います。

美観風致委員会

- ・環境委員会との共同による第20回地球温暖化防止キャンペーンの実施
- ・美観風致に関する情報の収集

美観風致委員会

滝久雄委員長

環境委員会の共同による第20回地球温暖化防止キャンペーンの実施、美観風致に関する情報の収集を実行いたします。



滝久雄美観風致委員長

環境委員会

- ・出版・発行物の環境への配慮
- ・「環境に配慮した取り組み」に関するアンケート調査の実施
- ・美観風致委員会との共同による第20回地球温暖化防止キャンペーンの実施

環境委員会
富田栄次委員長

1つ目が出版発行物の環境への配慮です。会報誌などFSC認証紙を使用しております。環境に配慮した取り組みについてのアンケートの実施、美観風致委員会との共同による第20回地球温暖化防止キャンペーンの実施、の3つの柱で昨年に引き続き進めてまいります。会員各社にはJAFRA環境方針と環境への取り組みについてのアンケート用紙をお配りしております。質問項目の中に含まれているJAFRA環境方針のポスター、ポケットサイズのカードにつきまして作成してから相応の時間が経っておりますので、改訂版の制作を検討していこうと考えており、その前段階でアンケートを実施しております。質問項目が多く、お手数をおかけいたしますが、回答と返信のご協力をお願いします。



富田栄次環境委員長

安全委員会

- ・安全管理に関する調査研究の推進
- ・安全作業に関する教育研修の実施

安全委員会

竹澤康行委員長

安全管理に関する調査研究の推進、安全作業に関する教育研究の実施を活動目的にしています。特に鉄道広告の媒体設置工事、広告の意匠掲出や交換作業については特に作業員の皆さんの絶対的な安全確保をお願いしていきたいと考えています。従って教育研修におきましても安全の徹底を念頭に置いた研修を実施してまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。



竹澤康行安全委員長

標準化委員会

- ・2026年度版「全国鉄道広告料金表」の協会ホームページへの収録、公開

標準化委員会

大塚尚司委員長

例年通り全国交通広告料金表2026年度版の改訂版を協会ホームページで掲載しております。

人材育成委員会

- ・「交通広告ビジネス概論2026」の発行
- ・鉄道広告実務研修の実施
- ・セミナー、シンポジウムの開催

人材育成委員会

川田博之委員長

今年度は3年に一度の中での発行となります。ビジネス概論の別冊ではなく正式のものを2026年バージョンとして秋に発行する予定です。また例年と同様ですが、鉄道広告実務研修の実施、セミナー、シンポジウムの開催と会員各社の人材育成に寄与する取り組みを実施する予定です。



川田博之人材育成委員長

技術開発委員会

- ・デジタルテクノロジー等を活用した、交通広告の価値向上や価値訴求に資する効果的、先進的な取り組み事例の収集、紹介
- ・交通広告が他媒体との競争力を維持し、連携を強化していくための、新技術を活用した、メジャメントやプログラマティックDOOH等の先進的な取り組み事例の収集、紹介
- ・交通広告でのAI技術の活用事例の収集、紹介

技術開発委員会

伊藤義彦委員長代理

薬師専務理事

日々進化するデジタルテクノロジー等を活用した交通報告の価値向上や価値訴求に資する効果的、先進的な取り組み事例の情報を収集し、会員各社に情報提供を

して参ります。交通広告が他の媒体との競争力を維持し、連携連携を強化していくための、新しい技術を活用したメジャメントやプログラマティックDOOH等の先進的な取り組み事例の情報を収集し、員各社に紹介してまいります。交通広告でのAI技術の活用事例も情報を収集し、会員各社に情報提供をして参ります。

調査研究委員会

- ・効率的なメディアプランニングに関する研究の促進
- ・利便性向上に向けたe販促データシステムのデータ整備
- ・利用者拡大に向けたe販促データシステム研修（活用方法、活用事例の紹介）

調査研究委員会

栗原圭一委員長代理

薬師専務理事

効率的なメディアプランニングに関する研究の促進、利便性向上に向けたe販促データシステムのデータ整備を行います。利用者拡大に向けたe販促データシステムの研修（活用方法、活用事例の紹介）ですが、2026年度は既に6月10日東京、6月17日大阪で実施しました。

業務近代化委員会

- ・業務近代化に関する課題の提言
- ・働き方改革の検討
- ・デジタルサイネージ導入による近代化目標の検討

業務近代化委員会
櫻井順委員長

近代化と申しまして、スピード感を含めて多岐にわたる領域だと思えますので、近代化に関する課題の提言、働き方改革の検討及びデジタルサイネージ導入による近代化目標の検討に取り組んでまいります。



櫻井順業務近代化委員長

PR委員会

- ・「JAFRA NEWS」の編集・発行と掲載内容の充実化

- ・JAFRA ホームページによる情報発信の強化
- ・関係する外部機関との連携強化

PR委員会

佐藤一哉委員長

会員の皆様との重要なコミュニケーションツールである「JAFRA NEWS」につきましては引き続き内容の充実を図りながら情報発信してまいります。またホームページは、昨年サイトのリニューアルを行いました。工夫しながらより良い情報を発信していきたいと考えております。また関係する外部機関も昨年設立された日本OHHメジャメント協会、日本広告業協会などとの連携を引き続き図ってまいります。

アカウンタビリティ向上委員会

- ・標準化委員会、調査研究委員会、業務近代化委員会と連携してアカウンタビリティ拡充・データ整備
- ・関東交通広告協議会、日本広告業協会と連携して調査実施、データ整備
- ・交通広告共通指標策定システムの運用及びシステム利用者拡大に向けた研修
- ・日本OHHメジャメント協会等、関係する外部機関との情報共有

アカウンタビリティ向上委員会
大塚尚司委員長

関東11社会にご協力いただき、隔年で行っている定量調査も、電車車両内の媒体ごとの乗降客の認知度の調査を行っていきたくと思っています。また日本OHHメジャメント協会の定量的な調査であるメジャメントの進捗状況を共有しながらJAFRAの調査を今後どうしていくのかを検討していきたいと考えております。



大塚尚司アカウンタビリティ向上委員長

2. 各支部の主な活動目標

北海道支部

- ・支部総会・懇親会の開催…7月
- ・媒体視察研修会の開催…10月
- ・交通広告勉強会の開催…11月
- ・新年懇親会の開催…2027年1月
- ・新規会員の加入促進(以降各支部共通)
- ・第20回地球温暖化防止キャンペーン

の実施(以降各支部共通)

北海道支部

滝沢健支部長代理
薬師専務理事

2026年の重点課題にある支部活動の活性化のため7月に支部総会・懇親会を開催し、10月には媒体視察研修、昨年度は博多広島を視察しましたが、今年度は名古屋を中心とした東海エリアを視察する予定です。また11月には交通広告勉強会の開催、2027年1月には情報共有化を含めた新年懇親会の開催を予定しています。以下、各支部共通で、新規会員の加入促進及び第20回地球温暖化防止キャンペーンの実施を開催いたします。

東北支部

- ・支部総会・懇親会の開催…7月
- ・支部セミナー等の開催…7月
- ・東日本鉄道仙台台広告会との連携

東北支部

奥村聡子支部長代理
薬師専務理事

支部活動の活性化のため、7月に支部総会・懇親会、セミナーを予定しております。また、東日本

鉄道仙台台広告会と連携を図りより活性化した活動を行って参ります。

首都圏支部

- ・支部総会・懇親会の開催…7月
- ・支部セミナーの開催…7月、11月、2027年3月
- ・支部幹事会の開催…7月、2027年3月
- ・鉄道広告実務研修の実施…10月
- ・鉄道利用促進による鉄道広告活性化キャンペーンの実施…9月
- ・地域間交流の促進、交通媒体広告会との連携

首都圏支部

石川明彦支部長

支部セミナーにつきましては年に3回の開催を計画しています。10月には鉄道広告実務研修の実施、9月には鉄道利用促進による鉄道広告活性化キャンペーンの実



石川明彦首都圏支部長

施予定です。それ以外にも交通媒体広告会との連携を深めてまいりたいと考えております。

中部支部

- ・支部総会・意見交換会の開催…7月
- ・支部セミナーの開催…2027年3月
- ・支部幹事会の開催…適宜開催

中部支部

佐藤一哉支部長

詳細は検討中ですが、支部総会・意見交換会を7月に、支部セミナー、支部幹事会などを順次行つてまいります。なお、この秋、名古屋を中心にアジア・アジアパラ競技大会が開催されます。その大会の前8月には名古屋駅に次ぐ中部地区のターミナルである金山総合駅に新しい大型の媒体が稼働予定ですので、ぜひ中部地区にも



佐藤一哉中部支部長

足をお運びいただければと思います。

近畿・中国・北陸支部

- ・支部幹事会の開催…7月、2027年3月
- ・支部総会・懇親会の開催…7月
- ・支部セミナーの開催…7月
- ・交通広告実務研修会の実施…9月
- ・関西交通媒体社広告会、関係諸団体との連携

近畿・中国・北陸支部

伊藤義彦支部長代理

薬師専務理事

支部活動の活性化のため、幹事会を毎年7月、2027年3月に開催します。支部総会・懇親会、支部セミナーを7月に開催します。交通広告実務研修の実施は9月に計画しています。また、関西交通媒体社広告会、関係諸団体との連携により情報を共有化し、活性化を図ってまいります。

四国支部

- ・支部総会・懇親会の開催…6月
- ・媒体視察研修会の開催…11月
- ・支部講演会・意見交換会の開催…2027年2月

四国支部
阿部徳章支部長

6月12日に支部総会を予定通り開催するとともに、その後懇親会を開催しました。毎年行っている視察研修は11月に、支部講演会、意見交換会の開催につきましても2027年2月に開催予定です。引き続き会員ひとりひとりの声を原動力に支部の活性化に努めてまいります。



阿部徳章四国支部長

九州支部

- ・支部総会・懇親会の開催…8月
- ・支部セミナーの開催…8月
- ・支部運営会議の開催…6月、2027年3月
- ・西鉄交通広告会、福岡市地下鉄交通広告会、九州鉄道広告会との連携

九州支部

盛澤篤司 支部長代理
薬師専務理事

支部総会・懇親会、及びセミナーを8月に開催いたします。支部運営会議の開催は6月、2027年3月に予定しています。西鉄交通広告会、福岡市地下鉄交通広告会、九州鉄道広告会との連携活動計画は、議案書に記載のとおりです。

3. 今後の協会行事計画

・理事会

第2回 2026年12月3日(木)

14時30分 (株)ジェイアール東日本企

画 10階大会議室

第3回 2027年3月4日(木)

15時30分 (株)ジェイアール東日本企

画 10階大会議室

・広告界合同年賀会

2027年1月7日(木) 帝国ホテル

この他、2026年度予算、第20回地球温暖化防止キャンペーン展開計画についての説明があり、以上をもって15時00分、2026年度定期総会は滞りなく終了した。

なお、これに先立つ5月21日に開催した第1回理事会及び、6月25日定期総会後に開催した臨時理事会において、次の項目が承認された。

委員長および副委員長の委嘱

○総務・財務委員会委員長

(新任) 中村 晃

(株)日交 代表取締役社長

(退任) 稲川 一

○総務・財務委員会副委員長

(新任) 米田 龍司

(株)日本宣交社 会長

(2026年5月21日付)

○人材育成委員会副委員長

(新任) 花木 孝延

(株)電通名鉄コミュニケーション

ンズ

(退任) 片浦 一郎

(2026年6月1日付)

○技術開発委員会委員長

(新任) 荻山 市朗

(株)JR西日本コミュニケーション

シヨンズ 代表取締役社長

(退任) 伊藤 義彦

○調査研究委員会委員長

(新任) 箱田 智正

(株)ムサシノ広告社 代表取締役

役社長

(退任) 栗原 圭一

○アカウンタビリティ向上委員会副委員長

(新任) 箱田 智正

(株)ムサシノ広告社 代表取締役

役社長

(退任) 栗原 圭一

○アカウンタビリティ向上委員会副委員長

(新任) 三浦 暁

(株)博報堂DYアウトドア

代表取締役社長

(退任) 高橋 陸晃

(2026年6月25日付)

支部長の委嘱

○近畿・中国・北陸支部 支部長

(新任) 荻山 市朗

(株)JR西日本コミュニケーション

シヨンズ 代表取締役社長

事務局からのお知らせ

理事会で、1社の入会が可決されましたのでご紹介いたします。これからよろしくお願いします。

株式会社静和堂



東京都渋谷区代々木

代表取締役 竹内 洋平

創業86年を迎える弊社は、デジタルコンテンツ・Web制作をはじめ、各種印刷物、交通広告、屋内外広告、商業広告撮影、イベント企画・運営、SPツール制作など、幅広いコミュニケーションサービスをご提供します。多様なメディアとクリエイティブでお客様の課題解決と価値創造をご支援します。経営理念「正確なものづくり」「コンプライアンスの遵守」「継続的な自己啓発」を実践し、信頼されるパートナーとして最適なコミュニケーションを追求して参ります。

(退任) 伊藤 義彦
(2026年6月25日付)

○新規会員の入会

賛助会員1社

(株)静和堂

代表者…代表取締役社長 竹内 洋平

所在地…東京都渋谷区

(2026年6月25日時点)

正会員社270社、賛助会員社26社

計296社

以上

●セミナー

定期総会終了後、セミナーを開催した。環境省総合環境政策統括官の白石隆夫氏を講師にお迎えして「最近の環境政策の動向について」というタイトルで講演をいただきました。

環境省が取り組んでいる施策の中心課題には3つあり、一つは脱炭素の問題、温暖化の話です。まさに天然資源が消費されている、化石燃料を消費して、温暖化している、この温暖化を止めなくてはいけないということで、各省の脱炭素施策を展開しています。次に、国が大変力を入れているのが、循環経済という問題です。大量消費、大量廃棄する社会から、使ったものを一旦なるべく再利用する、あるいはリサイクルする、なるべく土中に埋めることをしないで、資源としてもう一回循環利用をしましょうということです。もう一つは、自然を守りましょうというネイチャーポジティブの話、この3つです。この3つは相互に関係あるので、統合的に推進しないといけないというのが、我々の目下の課題になっています。という内容でお話いただきました。



講演する白石隆夫氏



白石隆夫氏プロフィール

1990年 大蔵省（現 財務省）入省。

内閣官房内閣内政審議室、財務省主計局・主税局、外務省OECD日本政府代表部、財務省主計局主計官（内閣・復興・外務担当）、復興庁参事官などを歴任。その後、環境省において総合環境政策局総務課長、大臣官房総務課長、地域脱炭素推進審議官、自然環境局長、環境再生・資源循環局長などを経て、2025年より総合環境政策統括官。

ました。講演終了後には参加者との活発な質疑応答があり、多くの会員の皆さまが熱心に聴講されていました。

●懇親会

久保田穰新会長挨拶

皆さん、本日は、総会、講演会、懇親会に足元の悪い中ご参加いただきましたことありがとうございます。今回の総会、臨時理事会におきまして、会長に選任されました久保田です。新井さんの後を受け、この重責には大変引き締まる思いがします。私はこれまでも、ずっと鉄道の仕事をしてまいりましたが、その中でも広告に関する仕事を何回も担当しておりました。JR東日本の事業創造本部で当時、広告担当の部長をして

おりまして、新井さんが上司の本部長で、厳しくご指導いただきながら、仕事をしておりました。今日ここに居られる皆さんの顔を拝見すると、その時お世話になった方が大勢いらつしゃって、大変心強く感じております。JR東日本に在籍時にJAFFRAの前身のJA RAPで2年半ほど理事を務めておりまして、縁を感じております。本日は大変短い時間ですが、情報交換を兼ねてと懇親を深めていただければと思います。これからお願いいたします。



挨拶する久保田穰新会長

来賓あいさつ

国土交通省鉄道局

鉄道サービス政策室 企画調整官

上村泰弘様

今朝方、東北地方を震源とする地震が発生しましたが、早期に着実な安全確保の上、運転を再開していただき、JR東日本関係者の皆様はじめ、関係各位のご尽力には重ねて御礼申し上げます。私は現在国土交通省鉄道局に勤務していますが、過去に鉄道業で働いていたことがあり、



国土交通省 上村泰弘氏

その中でも広告事業に携わっていたことがあります。鉄道業を離れ、国土交通省で色々な鉄道のボードを俯瞰しておりますと、我が国において鉄道というのは、圧倒的に利用者が多い輸送モードであると気づかれます。例えば新宿駅は1日当たり約300万人が乗降していますが、これは世界でも類を見ない圧倒的な利用者数です。そのため我が国において鉄道広告は、国民にとって身近なものですし、社会的な影響が大変大きいものだということを改めて感じています。広告としての倫理性、社会的妥当性、品位の保持というものは重要であるということは論を俟たないことです。だからこそ協会の活動の重要な役割を担っていただいているものと認識しております。引き続き協会の設立趣旨に則った取り組みを進めていただきますよう皆さまよろしく願います。

最後に、協会および会員の皆さまの益々のご発展・ご健勝、鉄道業界の更なる発展を祈念して、挨拶とさせていただきます。

東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役 マーケティング本部長 中川晴美様



東日本旅客鉄道株式会社
中川晴美氏

皆様方には、日頃から鉄道広告を盛り上げていただきまして、感謝申し上げます。コロナ禍で大変な思いをした鉄道広告ですが、今ようやく2019年度比の9割ぐらいいまで戻ってきました。これも広告主、広告代理店、JAFRAの会員の皆様のおかげだと心から感謝をしています。ただ、今、ご存知の通り、日本の広告費8兆623億円のうち半分以上がインターネット広告で、交通広告は、約数パーセントという状況です。しかしながら、生活者のエリアの細分化が進み、どうしてもインターネット広告だと自分の興味のあるものについてはほとんど情報が入ってきますが、リアルな場にある鉄道広告、駅や車内にあるリアルな場にある鉄道広告の価値が、改めてこの見直されていると感じています。私どもは「勇翔2034」というものを経営ビジョンとして掲げて、お客様に安心やワクワク、感動といったものを

お届けしたいと考えているところです。交通広告もそんなお客様に感動やワクワクなどもお届けできるように、ぜひ皆様と共にしっかりと取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしく願います。交通広告は非常に公共性が高いということで、社会的な価値をもつかりあることから、JAFRAが取り組んでいる地球温暖化防止キャンペーンも非常に価値のある取り組みだと思いますので、これからもぜひ皆様と共に協力しながら続けていけばと思っています。

臨時理事会で選出された石川明彦会長代行副会長による乾杯の発声の後、会員の皆さまは、和やかに歓談し親睦を深められた。



中締めをする滝副会長



乾杯の発声をする石川明彦副会長

役員一覧（*は新任）

会長（1名）

久保田 穰* 公益社団法人 日本鉄道広告協会

会長代行副会長（1名）

石川 明彦 (株)ジェイアール東日本企画

副会長（4名）

滝 久雄 (株)NKB

杉本 公男 協立広告(株)

川田 博之 (株)メトロアドエージェンシー

荻山 市朗* (株)JR西日本コミュニケーションズ

常任理事（11名）

富田 栄次 (株)大阪オリコミ

山口 淳* (株)小田急エージェンシー

大塚 尚司 (株)オリコム

盛澤 篤司* JR九州エージェンシー(株)

阿部 徳章* (株)ジェイアール四国企画

佐藤 一哉 (株)JR東海エージェンシー

望月 敏弘 (株)春光社

櫻井 順 (株)電通

鈴木 一哉* (株)東急エージェンシー

神田橋 治 (株)TOMOE

中村 晃 (株)日交

専務理事（1名）

薬師 晃 公益社団法人 日本鉄道広告協会

理事（22名）

辻元 伸明 小田急電鉄(株)

佃 侑彦郎 近畿日本鉄道(株)

鷹野 恵一 九州旅客鉄道(株)

永田 直人 京阪電気鉄道(株)

滝沢 健* (株)JR北海道ソリューションズ

田中 里沙 事業構想大学院大学

内藤 龍之介* 西武鉄道(株)

大津 英敏 多摩美術大学

藤野 理之* (株)電通名鉄コミュニケーションズ

國枝 伸行 東急(株)

藤川 祐司* 東京地下鉄(株)

丸山 智巳 東京藝術大学

有村 早苗 南海電気鉄道(株)

木所 隆介* 一般社団法人日本雑誌協会

中村 隆 (株)日交西部本社

米田 龍司 (株)日本宣交社

川津 匡宏* 西日本鉄道(株)

長谷川 真哉* 西日本旅客鉄道(株)

高木 浩一 東日本旅客鉄道(株)

稲川 洋之* (株)文宣

箱田 智正* (株)ムサシノ広告社

近藤 一成* 公益社団法人日本鉄道広告協会

監事（3名）

清水 勇宏 (株)近宣

竹澤 康行 (株)JR東日本メディア

松本 俊介 公益社団法人日本広告審査機構

委員会（*は新任）

総務・財務委員会

委員長 中村 晃* (株)日交

副委員長 竹島 博行

(株)ジェイアール東日本

企画

副委員長 米田 龍司*

(株)日本宣交社

倫理委員会

委員長 神田橋 治

(株)TOME

副委員長 中馬 輝彦

キング鉄道広告(株)

美観風致委員会

委員長 滝 久雄 (株)NKB

副委員長 中村 隆

(株)日交西部本社

副委員長 田中 里沙

事業構想大学院大学

安全委員会

委員長 竹澤 康行

JR東日本メディア(株)

副委員長 城戸 正幸

(株)アド近鉄

環境委員会

委員長 富田 栄次

(株)大阪オリコミ

副委員長 田中 幸夫

(株)大阪オリコミ

標準化委員会

委員長 大塚 尚司

(株)オリコム

副委員長 池谷 裕志

協立広告(株)

人材育成委員会

委員長 川田 博之

(株)メトロアドエージェンシー

副委員長 花木 孝延*

(株)電通名鉄コミュニケ

ーションズ

副委員長 古川 義夫

(株)ジェイアール東日本

企画

技術開発委員会

委員長 荻山 市朗*

(株)JR西日本コミュニ

ケーションズ

副委員長 望月 敏弘 (株)春光社

副委員長 山本 孝

(株)ジェイアール東日本

企画

副委員長 遠藤 正行

(株)東急エージェンシー

副委員長 大畠 諭

(株)JR西日本コミュニ

ケーションズ

調査研究委員会

委員長 箱田 智正*

(株)ムサシノ広告社

副委員長 藤原 英樹

(株)小田急エージェンシー

副委員長 櫻井 順 (株)電通

副委員長 櫻井 順 (株)電通

業務近代化委員会

委員長 櫻井 順 (株)電通

副委員長 阿部 徳章

(株)ジェイアール四国企画

PR委員会

委員長 佐藤 一哉

(株)JR東海エージェン

シー

副委員長 田中 里沙

事業構想大学院大学

アカウンタビリティ向上委員会

委員長 大塚 尚司 (株)オリコム

副委員長 櫻井 順 (株)電通

副委員長 三浦 暁*

(株)博報堂DYアウトドア

副委員長 箱田 智正*

(株)ムサシノ広告社

副委員長 箱田 智正*

副委員長 箱田 智正*

副委員長 箱田 智正*

北海道支部

支部長 滝沢 健

(株)JR北海道ソリュー

副支部長 ショーンズ

竹谷 英一

(株)交通新聞社北海道支社

東北支部

支部長 奥村 聡子*

(株)ジェイアール東日本企

画 仙台支社

副支部長 布 正勝

(株)近宣 仙台支社

首都圏支部

支部長 石川 明彦

(株)ジェイアール東日本

企画

副支部長 滝 久雄 (株)NKB

中部支部

支部長 佐藤 一哉

(株)JR東海エージェン

副支部長 藤野 理之

(株)電通名鉄コミュニケ

ーションズ

近畿・中国・北陸支部

支部長 荻山 市朗*

(株)JR西日本コミュニ

ケーションズ

副支部長 富田 栄次

(株)大阪オリコミ

四国支部

支部長 阿部 徳章

(株)ジェイアール四国企画

副支部長 塩 英寿

西日本広告(株)

九州支部

支部長 盛澤 篤司

JR九州エージェンシ

副支部長 中村 隆

(株)日交西部本社

副支部長 庄山 和利

(株)西鉄エージェンシー

副支部長 庄山 和利

(株)西鉄エージェンシー

(敬称略)

第20回「地球温暖化防止全国鉄道広告キャンペーン」を開催！

エキから

つづけエキからの物語。
エコな鉄道とともに。

JAFRA（会長…久保田穰、東京都渋谷区）は、「地球温暖化防止全国鉄道広告キャンペーン」を今年も実施いたします。

2007年、他の交通機関に対し、比較的環境に優しいとされる鉄道に活動基盤をおく公益法人としての立場から、環境問題に対する社会的警鐘を鳴らし、より豊かな社会の実現への貢献を目的にキャッチコピーは「エキからエコ。」としてこのキャンペーンはスタートしました。当時は鉄道広告媒体を全国的に一斉に活用してポスター掲出するキャンペーンは珍しく、また著名なアーティストやクリエイターの方々がキャンペーン趣旨に賛同し、ボランティアで作品を提供いただいたことも大きな特徴です。

この想いは、20年を迎えた今も変わることなく続いています。

暮らしの中で利用するエキは様々な活動の拠点であり、全国のエキから環境問題や社会問題の解決へ向けた取り組みのスタートラインとして、サステナブルな幸せを追求していきたいとの想いから、

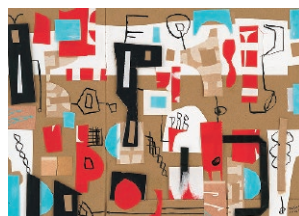
2年前にキャッチコピーを新たに「エキから」としました。

今年、第20回という大きな節目を迎えることができましたのも、本キャンペーンを支え、育ててくださった関係者の皆様、作品をご提供くださったアーティスト・クリエイターの皆様、そしてご協力いただいたすべての皆様、鉄道をご利用いただいている皆様の支えがあつてのものです。
心より感謝申し上げます。

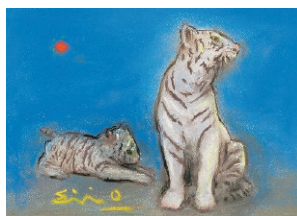
「エキから」というポスター、環境アートをご覧になる皆様一人ひとりが何かを感じ、身近でできるエコアクションをとっていただけることを願います。



テーマポスター



日比野 克彦「SON de FRAGMENTS」



大津 英敏「ふる里をしのぶホワイティ」



手塚 雄二「霞野／部分」



宮田 亮平「シュプリングエン」

つつ、これから一層の高みを目指して、エコな鉄道とともにエキからの物語を発信し続けていきます。

＜キャンペーンの概要＞

1. タイトル

第20回地球温暖化防止全国鉄道広告キャンペーン

2. 全体テーマ

「エキから」

3. ポスターテーマ

美しい環境と多様な生物

4. 実施期間

2026年8月1日（土）
～ 8月31日（月）

5. ポスター種類

駅ポスターB1ポスター×5種類
車内ポスターB3ポスター×5種類
駅デジタルサイネージ

6. 制作協力

ビジュアル提供…

宮田亮平

金工作家／東京藝術大学名誉教授

「シュプリングエン」

大津英敏

洋画家／多摩美術大学名誉教授

「ふる里をしのぶホワイティ」

手塚雄二

日本画家／東京藝術大学名誉教授

「霞野／部分」

日比野克彦

アーティスト／東京藝術大学学長

「SON de FRAGMENTS」

7. 主催

公益社団法人日本鉄道広告協会

8. 協賛

一般財団法人日本宝くじ協会

9. 後援

環境省、国土交通省

10. 協力

Osaka Metro、小田急電鉄(株)、九州旅客鉄道(株)、京都市交通局、近畿日本鉄道(株)、京王電鉄(株)、京成電鉄(株)、京阪電気鉄道(株)、京浜急行電鉄(株)、神戸市交通局、埼玉高速鉄道(株)、相模鉄道(株)、札幌市交通局、四国旅客鉄道(株)、西武鉄道(株)、東海旅客鉄道(株)、東急電鉄(株)、東京地下鉄(株)、東京都交通局、東京モノレール(株)、東武鉄道(株)、東葉高速鉄道(株)、名古屋市交通局、名古屋鉄道(株)、南海電気鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、阪急電鉄(株)、阪神電気鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)、北海道旅客鉄道(株)、横浜高速鉄道(株)、横浜市交通局

(33社局、五十音順)

委員会便り

総務・財務委員会

2025年度年次報告書を発行

総総務・財務委員会(中村晃委員長)では年次報告書を発行した。JAFRAの2025年度1年間の活動成果を記録として留めてあるほか、2025年日本の広告費、地球温暖化防止全国広告キャンペーン、鉄道利用促進による鉄道広告活性化企画、交通広告共通指標推進プロジェクトのリリースなど事業報告を掲載している。2026年6月25日発行



A4サイズ 88ページ 4色

調査研究委員会・アカウンタビリティ向上委員会

「e・販促データシステム」&「交通広告共通指標システム」講習会開催

調査研究委員会(箱田智正委員長)、アカウンタビリティ向上委員会(大塚

尚司委員長)では合同で、6月10日(水)に東京会場、6月17日(水)に大阪会場にて講習会を開催しました。それぞれのシステム

の利用方法や営業資料への活用方法等について、両会場合わせて67名の方が受講いたしました。



講習会東京会場

講習内容
①交通広告共通指標推定システムの説明

講師…交通広告共通指標PT幹事(株)電通 中野 雅之氏

②e・販促データシステム「Station AD Planner」の説明
講師…企画編集PT

編集長 協立広告(株) 佐藤 正洋氏
副編集 (株)NK B 波多野 友美氏

●支部便り●

四国支部

支部総会を開催しました

四国支部(阿部 徳章支部長)では6月12日(金)アールベルアンジェ高松において、2026年度定期総会を開

催し10社13名(2社は委任状)の会員社の参加がありました。



挨拶する阿部支部長

総会では、阿部支部長の挨拶後、5つの議案について審議され、全て満場一致で了承されました。

また、総会後の意見交換会には、10社19名の皆様にご参加いただき、会員相互の活発な意見交換と親睦を深める会となりました。

1.開催月日:2026年6月12日(金)

2.開催時間:17時00分~17時30分

3.会場:アールベルアンジェ高松

4.議題

(1)2025年度事業報告

(2)2025年度決算

(3)2026年度事業計画(案)

(4)2026年度予算(案)

(5)2026役員変更(案)

5.参加者 支部会員10社13名



総会中の会員様

編集後記

大人のスタンブラリーとして御朱印集めをしています。とはいえ、御朱印帳を常に携帯しているわけではないので、立ち寄った先で御朱印ペーパー(?)をいただいています。問題は、この御朱印を御朱印帳に貼る作業ですが、失敗したくないばかりに、未だに貼らずに放置されたものが重なっています。それと、その御朱印が入っていた紙袋をどうしたらいいのかわかりません。リサイクルするのが正解かもしれませんが、それぞれ美しいのでそちらもたま一方です。皆さまの夏の旅行先教えてください。



●メールと写真、ご意見、ご感想はこちらへどうぞ。 information@j-jafra.jp

●会員社の代表者、他が変更になった場合は、ホームページ(<https://j-jafra.jp>)の「各種届出書類」に変更届がありますので、ご記入の上、事務局宛にお送り下さい。ご協力お願いします。

